

Cisco Aironet 340/350 アダプタ用の Linux のドライバとユーティリティのインストール

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ハードウェアの設置](#)

[PC カードをインストールして下さい](#)

[PCI クライアント アダプタの取り付け](#)

[ドライバおよびユーティリティをインストールして下さい](#)

[インストールに関する注意書き](#)

[基本ドライバおよびユーティリティをインストールして下さい](#)

[PCMCIAドライバをインストールして下さい](#)

[PCI ドライバをインストールして下さい](#)

[Red Hat 7.1 でインストールして下さい](#)

[ユーティリティ許可を設定して下さい](#)

[ネットワークパラメータを設定して下さい](#)

[無線リンクを設定して下さい](#)

[IP アドレスを設定して下さい](#)

[インストールの完了](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Aironet 340 および 350 シリーズのクライアント アダプタ用の Linux ドライバおよびユーティリティのインストールについて説明します。

前提条件

要件

このインストールを完了することをこれらの項目が必要とします:

- Cisco Aironet 340 か 350 シリーズ クライアントアダプタカード
- Ciscoエアロネットシリーズ ワイヤレスLANアダプタ CD-ROM で見つかることができたりまたは[ワイヤレスダウンロード](#) ページからワイヤレス > Cisco Aironet 350 Wireless LAN クライアントアダプタ > Aironetクライアント バンドル (ファームウェア、ドライバ、ユーティリ

- テイ) でドライバを > Linux ダウンロードするユーティリティ、および Linux ドライバ。
- PCMCIA 顧客アダプタを使用する場合、Cisco はカードおよびソケットサービス pcmcia-cs-3.1.26 またはそれ以降を使用することを、[SourceForge](#) から利用可能推奨します。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Red Hat Linuxバージョン 7.0 を実行する東芝 Tecra8000 ラップトップコンピュータ カーネルバージョン 2.2.16-22
- Cisco Aironet クライアント アダプタ AIR-PCM342 (ファームウェア バージョン 4.23 を装備)
- ドライババージョン 1.5.000

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

ハードウェアの設置

注: Cisco Linux ドライバや pcmcia CS をダウンロードする場合、ファイルを /tmp のようなディレクトリに保存し、位置のメモを作って下さい。

PC カードをインストールして下さい

開始する前に、PC カードを確認します。カードの一端にデュアルロウの 68 ピン PC カード コネクタがあります。カードはキー入力されます従ってそれは PC カード スロットに 1 つのただ方法挿入することができます。

シスコのロゴがある面を上にして PC カードを持ち、PC カードのスロットに挿入します。確実に挿入されるまで適切に力を加えます。

注意: コンピュータの PC カード スロットに PC カードを強制しないで下さい。無理に押し込むと、カードとスロットの両方が破損するおそれがあります。PC カードを簡単に挿入できない場合は、いったん取り出してから、再度挿入します。

PCI クライアント アダプタの取り付け

PCI クライアントアダプタをインストールするためにこれらのステップを完了して下さい:

1. PC とそのすべてのコンポーネントの電源をオフにします。
2. コンピュータのカバーを取り外します。
3. CPU 背面パネル上部の空の PCI 拡張スロットの上にあるネジを取り外します。このネジは、背面パネル上の金属製のブラケットを留めています。注: ほとんどの Pentium PC では、

PCI 拡張スロットは白色です。スロットを識別するには、PC のマニュアルを参照してください。

4. クライアント アダプタを確認します。アダプタを取り付けると、アンテナ コネクタと LED がコンピュータの外側を向き、カバーを元に戻したときに見えるようになります。アダプタの下端は、コンピュータの空き拡張スロットに挿入するコネクタです。**注意：** 静電気が原因でクライアント アダプタが破損するおそれがあります。静電気防止用パッケージからアダプタを取り出す前に、アースの付いた PC の金属部分に触って静電気を放電します。
5. アダプタを傾けて、CPU 背面パネルにある開口部にアンテナ コネクタと LED を滑り込ませます。クライアント アダプタを空のスロットに差し込んで、コネクタが確実に収まるまで押します。**注意：** アダプタを無理に拡張ソケットに押し込まないでください。無理に押し込むと、アダプタとスロットの両方が破損するおそれがあります。アダプタを簡単に挿入できない場合は、いったん取り出してから、再度挿入します。
6. CPU のバックパネルのネジを再インストールし、コンピュータカバーを交換して下さい。
7. 手で締められているまでアダプタのアンテナ コネクタに 2 dBi アンテナを接続して下さい。締めすぎないように注意してください。最適受信に関しては、アンテナを置いて下さいそうすればまっすぐなアップです。
8. コンピュータを再起動します。

ドライバおよびユーティリティをインストールして下さい

インストールに関する注意書き

- ルートとしてインストールを行うためにログオンされるか、または別の方法でスーパーユーザの権利を持たなければなりません。
- Cisco の Linux ドライバのバージョン 1.5.000 は現在 Linux カーネルのバージョン 2.2.x および 2.4.x をサポートします。uname-a を入力し、カーネルバージョンを判別するために『Enter』を押して下さい。コンピュータの名前および Linux カーネルバージョンは表示する。
例：Linux montecito 2.2.16-22 #1 火曜日 8 月 22 日 164906 EDT 2000 i686 未知数この例では、montecito はコンピュータ名であり、2.2.16-22 はカーネルバージョンです。

基本ドライバおよびユーティリティをインストールして下さい

Linux ドライバをインストールするためにこれらのステップを完了して下さい。

1. ドライバおよびユーティリティが含まれている Cisco エアロネットシリーズ ワイヤレス LAN アダプタ CD-ROM がある場合それをコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入し、CD-ROM の Linux ディレクトリに行ってください。Cisco ダウンロードからダウンロードされるドライバを使用する場合ファイルを保存したディレクトリに行ってください。tar コマンドの使用によってアーカイブを開けて下さい。pcmcia CS の更新バージョンをダウンロードした場合、そののまた荷を解いて下さい。
2. ターミナル ウィンドウで、SH ./cwininstall を入力し、『Enter』を押して下さい。

```
russ@montecito: /tmp
[russ@montecito /tmp]$ su
Password:
[root@montecito /tmp]# uname -a
Linux montecito 2.2.16-22 #1 Tue Aug 22 16:49:06 EDT 2000 i686 unknown
[root@montecito /tmp]# tar zxf pcmcia-cs-3.1.26.tar.gz
[root@montecito /tmp]# tar zxf AIROLINUXv15000.tar.gz
[root@montecito /tmp]# sh ./cwininstall
```

- Linuxドライバの前のバージョンはクライアントユーティリティがインストールされるが、バージョン 1.5.000 で、ユーティリティ acu、bcard、leapset、leapscript および leaplogin は /opt/cisco/bin に自動的にインストールされていますディレクトリを規定することを可能にしました。ヘルプファイルはまたこのディレクトリにインストールされています。スクリプトがファイルをインストールすることを終わったら続かのために『Enter』を押して下さい。

```
russ@montecito: /tmp
Welcome to the Cisco Aironet Wireless Installation script!

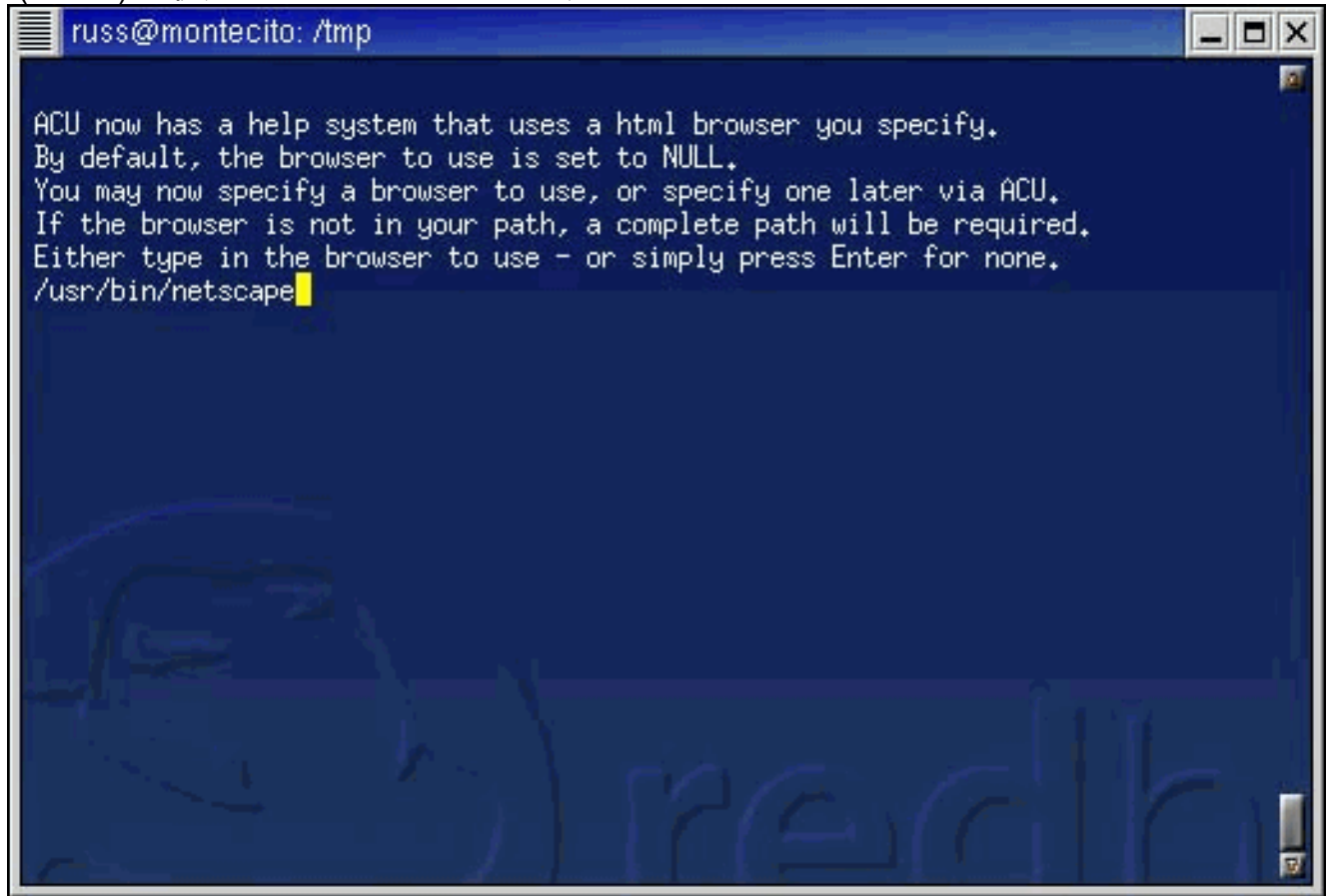
This shell script will attempt to install the Cisco Aironet
Linux driver and utilities.
The utilities require a base directory location of /opt/cisco/bin.

Installing the utilities: acu bcard leapset leapscript leaplogin
All utilities installed.

Installing Help Files...
Help Files installed.
Please press Enter to continue

```

4. インストール スクリプトは Webブラウザの名前のためにヘルプ ファイルを表示するのに使用するためにプロンプト表示します。これを今規定するか、または Aironet Client Utility (ACU) を使用してあとで設定できます。

A terminal window with a blue background and white text. The title bar reads 'russ@montecito: /tmp'. The text inside the terminal is: 'ACU now has a help system that uses a html browser you specify. By default, the browser to use is set to NULL. You may now specify a browser to use, or specify one later via ACU. If the browser is not in your path, a complete path will be required. Either type in the browser to use - or simply press Enter for none. /usr/bin/netscape' followed by a yellow cursor.

```
russ@montecito: /tmp
ACU now has a help system that uses a html browser you specify.
By default, the browser to use is set to NULL.
You may now specify a browser to use, or specify one later via ACU.
If the browser is not in your path, a complete path will be required.
Either type in the browser to use - or simply press Enter for none.
/usr/bin/netscape
```

5. 非修飾カーネルと Red Hat Linux システムを使用する場合尋ねられます。その場合、この資料の [Red Hat 7.1](#) セクションの[インストール](#)を参照して下さい。そうでなかったら、次のステップに進んで下さい。
6. インストーションスクリプトは既に pcmcia CS のバージョン 3.1.26 (またはそれ以降) の荷を解いてしまったことを確認します。まだファイルの荷を解いていない場合、スクリプトはカードおよびソケットサービスをダウンロードすることおよび荷を解くための手順を与えます。これが堪能、インストーションスクリプトを再実行して下さい。既にファイルの荷を解いている場合、ファイルにパスを入力して下さい。


```
russ@montecito: /tmp
Once the driver is installed - normally any user can run the utilities and
configure the radio.  If this is NOT desired - chmod the permissions of
the utilities to 500:
"chmod 500 /opt/cisco/bin/*"

Now attempting to determine how many Ethernet cards you have installed.
You already have an Aironet card installed as eth0.
The Aironet card will be Ethernet adapter eth0.
The utilities are installed and the default configuration file created,
now the driver needs to be installed.
Are you using a Red Hat 7.1 system with an unmodified kernel? (y/n)
n
Do you have pcmcia-cs-3.1.26.tar.gz (or greater) unpacked already? (y/n)
y

Please enter the path to the unpacked card and socket services
An example would be /usr/src/pcmcia-cs-3.1.26
/tmp/pcmcia-cs-3.1.26
```

注: カードおよびソケットサービスの異なるバージョンを使用したいと思う場合インターネットからの異なるバージョンを (SourceForge のようなサイトから) 得、次にインストールを続けるためにこのインストールから壊れることができます。

7. ドライバファイルはコピーされ、カードおよびソケットサービスをインストールするために実行するコマンドのリストを記載します。

```
russ@montecito: /tmp
Proceeding with copying over the driver files...
All driver files copied...

You now need to configure card and socket services, compile and install it
and then build and install the driver.
You may want to write down these instructions or start another
session and refer back to this one...
Type the following when your shell prompt returns:

"cd /tmp/pcmcia-cs-3.1.26"
"make config"
"ENTER" to accept all the defaults
If it configures w/out errors type:
"make all"
If that builds w/out errors type:
"make install"
The Cisco driver should now be compiled and installed.
Your system should now be ready - reboot or restart card and socket services.
When you have logged back in, run acu and configure your card.
If you are using a PCI card - you need to edit your startup files,
to insmod airo.o upon bootup.
pcmcia radio support should be automatic.
[root@montecito /tmp]#
```

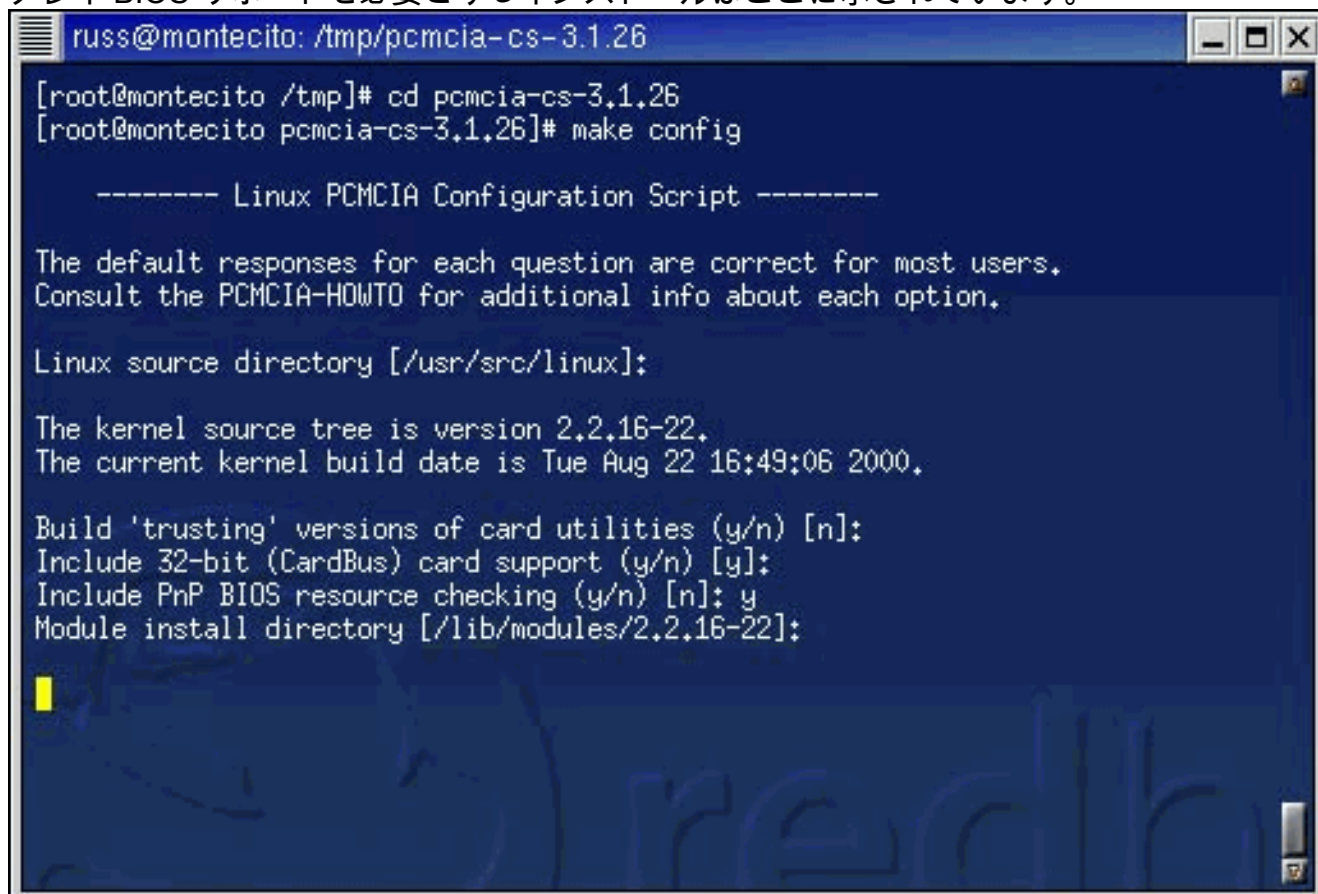
適切なプロシージャを完了して下さいインストールしているドライバの種類に基づいてイン

ストールを終了するためにこの資料に残る。

PCMCIAドライバをインストールして下さい

PCMCIAドライバをインストールするためにこれらのステップを完了して下さい

1. PCMCIAドライバをインストールする場合、ドライバファイルが荷を解かれたディレクトリに変更して下さい、型は**構成をします**。
2. 一連の質問に回答するためにプロンプト表示されるとき各質問のデフォルト値を受け入れるか、または適切ように別の代替を選択するために『Enter』を押して下さい。プラグアンドプレイ BIOS サポートを必要とするインストールはここに示されています。



```
russ@montecito: /tmp/pcmcia-cs-3.1.26
[root@montecito /tmp]# cd pcmcia-cs-3,1,26
[root@montecito pcmcia-cs-3,1,26]# make config

----- Linux PCMCIA Configuration Script -----

The default responses for each question are correct for most users.
Consult the PCMCIA-HOWTO for additional info about each option.

Linux source directory [/usr/src/linux]:

The kernel source tree is version 2.2.16-22.
The current kernel build date is Tue Aug 22 16:49:06 2000.

Build 'trusting' versions of card utilities (y/n) [n]:
Include 32-bit (CardBus) card support (y/n) [y]:
Include PnP BIOS resource checking (y/n) [n]: y
Module install directory [/lib/modules/2.2.16-22]:
```

3. 各質問に回答した後作り、**すべてを**『Enter』を押します入力して下さい。


```
russ@montecito: /tmp/pcmcia-cs-3.1.26
[root@montecito pcmcia-cs-3.1.26]# make all
make[1]: Entering directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/modules'
gcc -MD -O2 -Wall -Wstrict-prototypes -pipe -I../include -I/usr/src/linux/include -D__KERNEL__ -DMODULE -c i82365.c
{standard input}: Assembler messages:
{standard input}:9: Warning: Ignoring changed section attributes for .modinfo
gcc -MD -O2 -Wall -Wstrict-prototypes -pipe -I../include -I/usr/src/linux/include -D__KERNEL__ -DMODULE -c tcic.c
█
```

4. `make all` コマンドが終了する実行するとき、タイプはインストールをし、『Enter』を押します。

```
russ@montecito: /tmp/pcmcia-cs-3.1.26
[root@montecito pcmcia-cs-3.1.26]# make install
make[1]: Entering directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/modules'
cp pcmcia_core.o ds.o cb_enabler.o i82365.o tcic.o /lib/modules/2.2.16-22/pcmcia
make[1]: Leaving directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/modules'
make[1]: Entering directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/clients'
cp serial_cs.o memory_cs.o ftl_cs.o dummy_cs.o sram_mtd.o iflash2_mtd.o iflash2+_mtd.o memory_cb.o serial_cb.o 3c575_cb.o tulip_cb.o epic_cb.o eepr0100_cb.o apa1480_cb.o pnet_cs.o 3c589_cs.o nmclan_cs.o fmvj18x_cs.o smc91c92_cs.o xirc2ps_cs.o 3c574_cs.o ibmtr_cs.o ide_cs.o parport_cs.o qllogic_cs.o aha152x_cs.o fdomain_cs.o /lib/modules/2.2.16-22/pcmcia
cp 8390.o /lib/modules/2.2.16-22/net
make[1]: Leaving directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/clients'
make[1]: Entering directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/wireless'
cp netwave_cs.o wavelan_cs.o ray_cs.o wlan_cs.o airo_cs.o airo.o /lib/modules/2.2.16-22/pcmcia
make[1]: Leaving directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/wireless'
make[1]: Entering directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/cardmgr'
cp -f cardmgr cardctl ifport ifuser scsi_info ide_info pcinitrd /sbin
chmod u+s /sbin/cardctl
make[1]: Leaving directory `/tmp/pcmcia-cs-3.1.26/cardmgr'
█
```

5. パスに `/opt/cisco/bin/` を追加して下さい。正しい構文のために使用しているシェルについてはマニュアル ページを参照して下さい。PCMCIAドライバ インストールは現在完了しました。 [一定ユーティリティ許可](#)に進んで下さい。

PCI ドライバをインストールして下さい

PCMCIAカードよりもむしろ PCI カードを使用する場合、いくつかの異なるステップは適用されません。

airo.o ファイルが PCI カードのためにロードされるべきであることを **linuxconf** を使用する他の分配および Red Hat はオペレーティング システムに告げるのにそのユーティリティを使用する必要があります。他の分配のユーザは始動ファイルがドライバをロードする必要がある分配の推奨事項に従う必要があります。

7.2 前の Slackware 分配は **/etc/rc.d/rc.modules** ファイルの終わりにドライバをロードするために行を追加する必要があります。下記の例では、**/etc/rc.d** にディレクトリを変更し、既存の **rc.modules** ファイルのバックアップを作成し、**rc.modules** にコマンド **/sbin/modprobe airo** を追加します。

```
# cd /etc/rc.d
# cp rc.modules rc.modules.bak
# echo /sbin/modprobe airo >> rc.modules
```

Slackware は **/etc/rc.d/rc.netdevice** ファイルに 7.2 人のユーザ同じ行付け加えることができます。

Red Hat 7.1 でインストールして下さい

Red Hat 7.1 は 2.4.2-2 カーネルで PCMCIA のサポートがデフォルトで含まれています。Red Hat 7.1 システムに最も容易でおよびほとんどの推奨されていてオプション 1 が 3 つのインストール選択が、あります。

- **オプション 1 (推奨)** - **/etc/pcmcia/config** 在庫ファイルをドライバ ターボールで供給されるものと置き換え、ドライバの供給されたバイナリバージョンを使用して下さい。コンパイルは必要ではありません。これは「ワークステーション」設定とインストールされるシステムのために推奨されます。
- **オプション 2** パッチ カーネルPCMCIAサポートが付いているモジュールとして構築されるようにドライバがするカーネル ソース ツリー。これはコンパイル ツールの存在を (GCC のような) 必要としましたりしかしインストール済みカーネルの完全なコンパイル/置換を必要としません。
- **オプション 3** は組み込みPCMCIAサポートを使用しないためにカーネルを再構成し上で詳述されるように **pcmcia-cs.3.1.26** をインストールします。これは完全なカーネル改造およびインストールを必要とします。これはおそらく最先端のインストール方式です。

カーネルベース PCMCIA のサポートをディセーブルにする Red Hat 以外 7.1 のシステムか Red Hat 7.1 システムに関しては、**pcmcia CS** サポートのビルディングの標準的な方法は使用する必要があります。

ユーティリティ許可を設定して下さい

ルート ユーザ (それら管理権限と) にクライアントユーティリティにアクセスを制限したいと思わなければ操作が必要となりません。

ルート ユーザだけクライアントユーティリティを実行し、クライアントアダプタを設定できてほしい場合コマンド プロンプト型 **chmod** で。

500 /opt/cisco/bin/ *

そして『Enter』 を押して下さい。

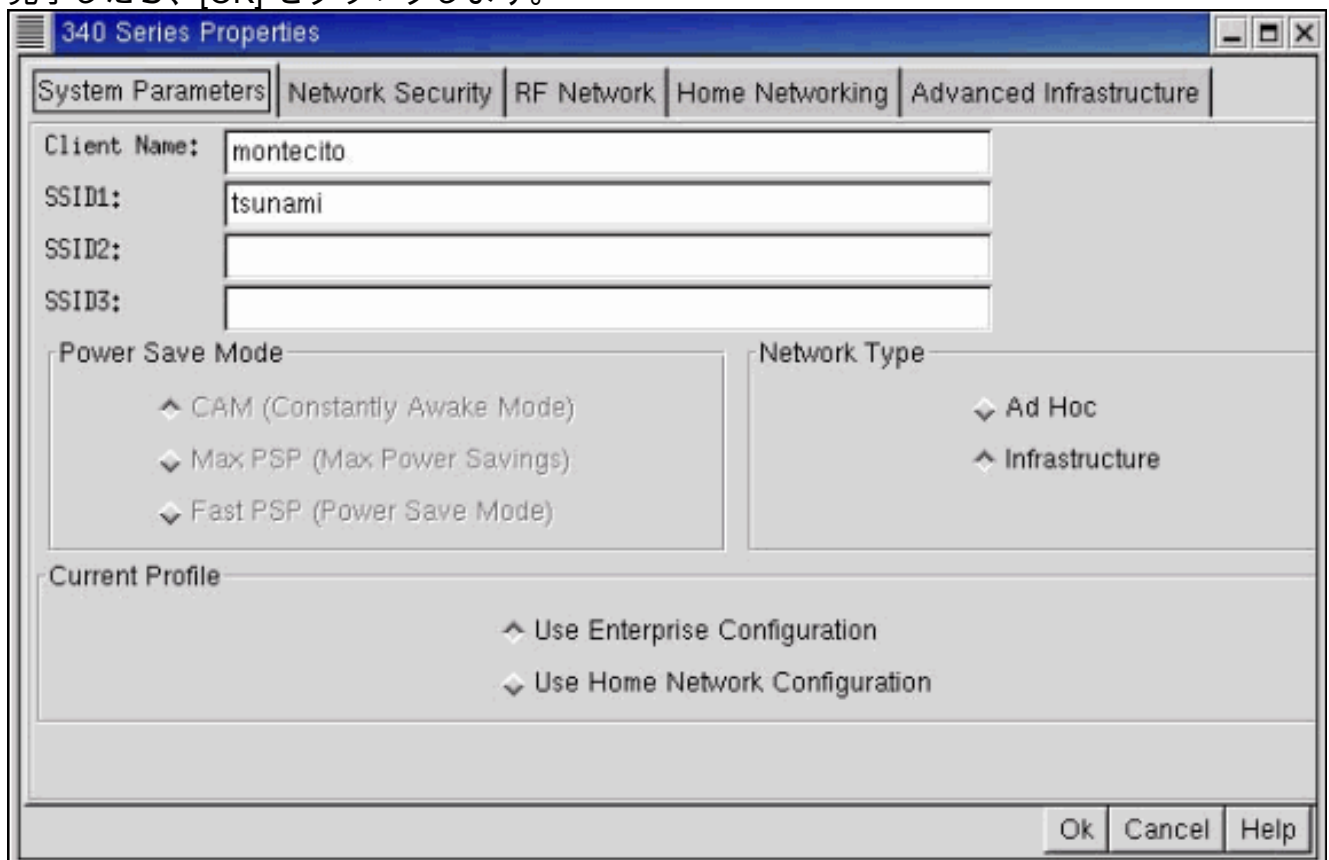
ネットワークパラメータを設定して下さい

インストールされてクライアントアダプタカードがおよび無線通信を確立し、IPネットワークを渡すトラフィックを通過できるようにドライバおよびユーティリティ システムを設定する次の必要。

無線リンクを設定して下さい

Access Point (AP) に無線リンクを確立する AP と同じ Service Set Identifier (SSID) を使用するために Cisco Aironet クライアントアダプタに関してはクライアントは設定する必要があります。クライアントの SSID を設定するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. コマンド プロンプトで、Aironet Client Utility (ACU) を開始するために **acu** を入力して下さい。
2. ACU Commands メニューでは、Edit > Properties の順に選択して下さい。
3. System Parameters タブで、クライアントネームおよび SSID を入力して下さい。値 *montecito* および *tsunami* はデモンストレーション目的でのみここに示されています。使用するために正しい値を判別するようにネットワーク管理者に連絡する必要がある場合もあります。
4. 完了したら、[OK] をクリックします。



SSID と共に、クライアントの Wired Equivalent Privacy (WEP) 設定はアクセス ポイント使用中のそれらを一致する必要があります。WEP の設定の情報に関しては、[Wired Equivalent Privacy \(WEP \) の設定を参照して下さい](#)。

[IP アドレスを設定して下さい](#)

ネットワークの無線関連側面を設定した後、IP アドレッシングを設定する必要があります。IP アドレスはダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコルによって動的に得ることができたりまたは静的に設定することができます。

[DHCP のための設定](#)

コンピュータの IP アドレスに DHCP によって割り当てられてほしく、ネットワークに DHCP サーバがあれば、DHCP クライアント ユーティリティを実行して下さい。2 つの最も普及したクライアントユーティリティは `dhcpcd` および `pon` です。ほとんどの Linux ディストリビューションは 1 つまたは両方があるはずです。どちらもない場合、配布された CD-ROM から 1 つをインストールするか、またはインターネットから 1 をダウンロードして下さい。詳細については分配のホームページを参照して下さい。

`linuxconf` ユーティリティが含まれている他の分配および Red Hat で、コンピュータの DHCP を設定するのにこのユーティリティを使用する必要があります。ルートとしてログオンされるか、または同等のスーパーユーザ特権を持たなければなりません。他の分配のユーザは DHCP の設定の分配の推奨事項に従う必要があります。

`linuxconf` ユーティリティで DHCP を設定するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. `linuxconf` を入力し、コマンド プロンプトで『Enter』を押して下さい。
2. Config タブの下で、Networking > Client tasks > Basic host information の順に選択して下さい。
3. Cisco Aironet クライアントアダプタに適切な Adapter タブを選択して下さい。クライアントアダプタの数はそれがインストールされる唯一のイーサネット アダプタ カードである場合アダプタ 1 です。
4. マークされるボックスが有効にされてチェックされること確かめて下さい。
5. コンフィギュレーションモードに関しては、『DHCP』を選択して下さい。
6. ネットデバイスの隣で、プルダウン メニューを使用するか、またはクライアントアダプタのデバイス名を打ち込んで下さい。それがインストールされる唯一のイーサネット アダプタ カードである場合クライアントアダプタの名前および数は `eth0` です。注: デバイス名および番号について不確実である場合、ACU を実行し、『Status』を選択するのに **Commands** メニューを使用することによってデバイスの情報を確認できます。ACU の Status 画面の *Device* フィールドは使用されるアダプタの名前および番号を示します。

[スタティックアドレスのための設定](#)

コンピュータが DHCP サーバから IP アドレスを得ない場合、コンピュータの正しい IP アドレス、サブネット マスクおよびデフォルトゲートウェイアドレスを調べるためにネットワーク管理者に連絡して下さい。

`linuxconf` ユーティリティが含まれている他の分配および Red Hat で、コンピュータの IP アドレスを設定するのにこのユーティリティを使用する必要があります。ルートとしてログオンされるか、または同等のスーパーユーザ特権を持たなければなりません。他の分配のユーザは IP アドレッシングの設定の分配の推奨事項に従う必要があります。

`linuxconf` ユーティリティで IP アドレスを設定するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. コマンドプロンプトで、**linuxconf** を入力し、『Enter』 を押して下さい。
2. Config タブの下で、Networking > Client tasks > Basic host information の順に選択して下さい。
3. Cisco Aironet クライアントアダプタに適切な Adapter タブを選択して下さい。クライアントアダプタの数はそれがインストールされる唯一のイーサネット アダプタ カードである場合アダプタ 1 です。
4. マークされるボックスが**有効に** されてチェックされること確かめて下さい。
5. **コンフィギュレーションモード**に関しては、『Manual』 を選択して下さい。
6. それらに提供される領域の IP アドレスおよびネットマスクを入力して下さい。 使用するために正しい値を判別するようにネットワーク管理者に連絡する必要がある場合もあります。
7. **ネットデバイス**の隣で、プルダウン メニューを使用するか、またはクライアントアダプタのデバイス名を打ち込んで下さい。それがインストールされる唯一のイーサネット アダプタ カードである場合クライアントアダプタの名前および数は **eth0** です。注: デバイス名および番号について不確実である場合、ACU を実行し、『Status』 を選択 するのに **Commands** メニューを使用することによってデバイスの情報を確認できます。ACU の Status 画面の *Device* フィールドは使用されるアダプタの名前および番号を示します。
8. **Config** タブの下で、Routing and gateways > Set defaults の順に選択して下さい。
9. デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを入力して下さい。 使用するために正しい値を判別するようにネットワーク管理者に連絡する必要がある場合もあります。
10. 『Accept』 をクリックし、そして『Act/Changes』 をクリックし、**やめて下さい**。

インストールの完了

ドライバのインストールおよびユーティリティの設定が完了した、ネットワークサービスが単に再度ブートするを再起動できます。

ドライバおよびクライアントユーティリティ インストールは完了しました。各ユーティリティを使用する方法に関する説明に関しては tarball のドライバに伴った **readme.txt** ファイルか [Cisco Aironet Wireless LAN アダプタ ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド](#)を参照して下さい。

関連情報

- [Cisco ダウンロード : ワイヤレス製品](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - シスコシステムズ](#)